

進路だより

第2号

2020年（令和2年）

7月10日発行

進路指導担当 徳網俊夫

三者面談に向けて進路について考えよう

期末テストに向けてがんばっているところだと思います。学習は順調に進んでいますか？ 先日、各クラスで進路について学習しました。入試までのスケジュールは確認できましたか？ 今の時期は志望校の候補をいくつか選び、それぞれの学校について調べてみてください。志望校について調べながら自分の将来について考えることも大切です。

入試について知っておこう

7月22日（水）から三者面談が始まります。進路や学習についての話題も出ると思いますが、分からないこと、心配なことなど、どんな事を相談したいか考えておいてください。また、お家の方と進路についてよく話し合っておいてください。

受験についての詳細は後日資料を配付しますが、入試に関して三者面談の前に知っておいてほしいことを裏面に載せました。私立高校の入試についての説明です。公立高校が第一志望の場合でも私立高校を併願で受験するパターンが多いので、お家の方と一緒によく読んで内容を理解しておいてください。大切な事は「個別相談に行く際に1学期の成績を参考にする場合が多いので通知表をもらったらコピーを取っておくこと」、「私立高校を受験する場合は必ず個別相談会に参加して合格の見込みについて高校に確認しておくこと」です。

※ 今年は新型コロナウイルスの関係で進路保護者会が開けませんでした。進路に関して何か質問があれば、三者面談期間中職員室に学年主任 本橋か進路担当 徳網がいますのでお尋ねください。

説明会・体験入学に参加しよう

いくつか志望校の候補を見つけたら、その学校について調べてみましょう。中学校にはいろんな高校からパンフレットが送られてきています。各クラスの進路係の人に教室の後ろの棚に置いてもらっていますので参考にしてください。「高校受験案内」という本も各教室に購入しました。また、進路に関する情報は第一会議室前の壁に掲示してありますので時々気をつけて見てください。

気になる学校があったら、学校見学会（説明会）や体験入学に参加してみましょう。実際に行ってみると学校の雰囲気や通学にかかる時間などがよく分かります。説明会・体験入学等について多くの学校は各学校のホームページに載っているので見てみましょう。中学校に資料が届いているものもあります。



■ 川越総合高校の募集人員が40人減

令和3年度の県公立高校の募集人員が発表になりました。埼玉県全体では昨年より840名減ります。近隣の学校で募集人員が減るのは川越総合高校が40名減（昨年240名→200名）、越生高校普通科 40名減（120→80）、志木高校 40名減（280→240）、新座柳瀬高校 40名減（240→200）などです。

入試について知ろう (1) ～私立高校編～

これから何回かに分けて入試の制度について説明します。今回は私立高校の受験についてです。5月の進路希望調査では公立高校の希望が多かったですが、公立高校は私立高校のあとに試験があるため、公立高校が第一希望であっても私立高校を受験したうえで公立高校を受けるのが一般的です。したがって多くの人が私立高校も受ける事になると思いますので、まず私立高校の入試の仕組みから説明します。

単願・併願

多くの私立高校には「単願」「併願」という受験形態があります。(単願・併願の制度がない私立高校もあります。)

● 単願

- ・私立高校または専修学校を第1希望として受験することを「単願」といいます(学校によっては「専願」「A推薦」「推薦Ⅰ」などという名称の場合もあります)。後述する併願で受験する生徒よりも学力試験などで有利に扱われるというメリットがあります。
- ・合格したら必ずその学校へ入学することが条件です。従って2校以上の学校に単願で出願することはできません。

● 併願

- ・第1希望以外の私立高校や専修学校への志願を「併願」といいます。合格しても必ずしもその高校に入学する必要はありません。

推薦受験・一般受験

多くの受験生は、単願でも併願でも、1月中旬～下旬を中心に行われる「推薦受験」を受験しています。

◎ 単願推薦

- ・主としてその学校を第1希望(単願)で受験する生徒に対して、高校側が提示する推薦基準をクリアしている生徒は、推薦入試を受験できます。
- ・入試は**1月中旬**に行う学校がほとんどです。
- ・推薦入試で不合格でもその後行われる一般受験を再受験できます。

◎ 併願推薦

併願の受験者に対しても高校側の基準をクリアすれば、**1月の推薦入試を併願として受験**できる制

度。併願での受験なので、合格しても必ずしもその高校に入学しなくてもかまいません。

◎ 自己推薦 (いくつかの私立高校で導入されています。)

従来の推薦は、高校側の基準をクリアし、中学校長の推薦書をもって初めて受験できますが、自己推薦では受験生本人の申告で出願できます。

☆この2つを組み合わせた、「併願自己推薦」を行う高校もあります。

注)推薦受験で受けられれば、必ず合格できるわけではありません。学校によっては推薦受験者から不合格者が出る場合もあります。私立高校の説明会で、担当者がどのように説明したか確認し、個別相談でもう一度たずね、記録を取っておいてください。

○ 一般受験

推薦受験がもともと無い学校や、その制度の枠外で受験することを「一般受験」といいます。単願推薦・併願推薦のない学校は一般受験になりますが、多くの学校では推薦制度を実施しているため一般受験をする生徒はあまり多くありません。

個別相談会について

【重要】多くの私立高校で「個別相談会」を受験生とその保護者を対象に実施しています。この個別相談会で、推薦入試で受験できるかどうかを高校側に直接確認することができるので、**私立高校受験希望者は単願・併願にかかわらず必ず参加するようにしてください。**実施時期は10月くらいから行う学校が多いです。

また、そのときに中学校での通知表の成績や、校外での模擬試験(埼玉県では北辰テスト)の結果が資料としてよく使われます。**1学期の通知表のコピーを取っておく**と、相談時に具体的な話がしやすくなります。

※ここまでに書かれたことは、一般的な私立高校の入試についての説明です。私立高校は学校によって、入試の制度・名称など、かなり違いがあるので、必ず希望する学校について、詳しく調べておくようにしてください。